



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月7日

上場会社名 株式会社アイロムグループ 上場取引所 東  
コード番号 2372 URL <https://www.iromgroup.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森 豊隆  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 金融・経営管理センター長 (氏名) 菅原 明彦 TEL 03 (3264) 3148  
四半期報告書提出予定日 2024年2月8日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	12,868	△7.4	810	△73.2	1,134	△61.2	972	△56.5
2023年3月期第3四半期	13,896	19.0	3,027	37.8	2,922	25.2	2,238	25.8

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,057百万円 (△53.4%) 2023年3月期第3四半期 2,270百万円 (39.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	80.33	—
2023年3月期第3四半期	185.13	184.94

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	36,545	12,358	33.8
2023年3月期	35,129	12,154	34.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 12,358百万円 2023年3月期 12,148百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	25.00	—	30.00	55.00
2024年3月期	—	40.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	14.4	4,200	15.4	4,200	27.8	2,900	14.1	239.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	12,338,365株	2023年3月期	12,338,365株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	230,813株	2023年3月期	230,803株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	12,107,542株	2023年3月期3Q	12,089,695株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

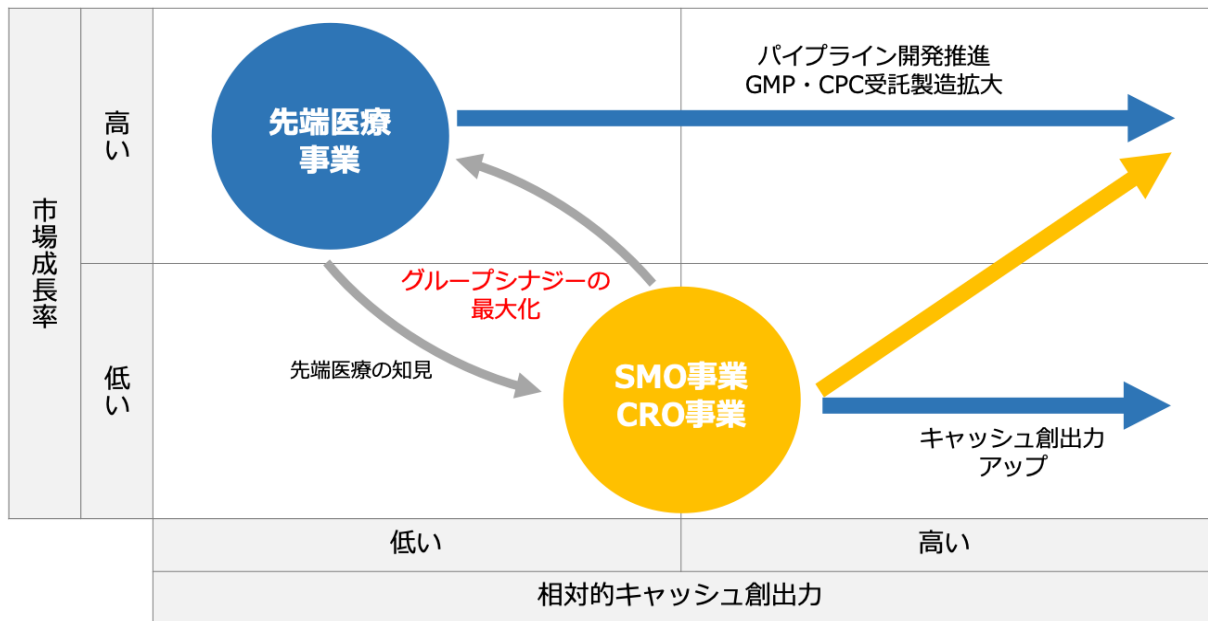
1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、創業以来の中核事業であるSMO事業及びCRO事業の拡大を推進するとともに、グループ戦略として、SMO事業及びCRO事業で創出される資金を原資として、先端医療事業における医薬品や先端医療技術の開発、メディカルサポート事業のノウハウを活かした設備投資等を行うことで、各事業の事業基盤を強化し、多様化・高度化する市場の要求に応えることができる製品・サービスの品質向上及び研究開発力の強化を実現しています。

引き続き変革と革新に取り組み、グループシナジーをさらに拡大し競争優位性を高めることで、さらなる飛躍に向けた中長期的な企業価値の向上にも取り組んでいます。



SMO事業においては、基幹病院との提携拡大及びがんや難治性疾患を含むあらゆる疾患領域の試験の受託が可能な体制を整備したことにより、安定した収益拡大の基盤を構築しています。第4四半期には新たに受託した大型案件の実施を予定しているなど、計画は順調に進捗しており、事業基盤の強化がここ数年の業績の拡大に顕著に現れています。

CRO事業においても、海外事業が堅調に推移するとともに、国内事業において受託業務の拡大や統計解析分野のさらなる強化などの取り組みにより、医師主導治験をはじめとした新規試験の受託が増加しています。国内事業の事業基盤の強化を進めたことにより業績が急拡大しています。

先端医療事業では、上記グループ戦略に基づきSMO事業及びCRO事業で創出される資金を原資として、COVID-19ワクチン「IRO-203」やバイオシミラー等の研究開発を推進しています。

「IRO-203」は、国内初のウイルスベクターを用いた経鼻接種ワクチンとして開発を進めており、第I相臨床試験を実施中です。中間解析では単回接種による安全性及び忍容性について問題となる事象は見られておらず、引き続き2回接種による安全性評価及び接種間隔やブースト効果等の有効性評価を実施する予定です。ワクチン開発については将来的にこの技術を他のワクチン等にも活用することを視野に入れて開発を進めています。

バイオシミラーの開発は、国際共同第III相試験を実施中です。試験の開始は前期の予定から今期に変更となりましたが、計画よりも早く進捗することができ、目標症例数の登録が完了しました。本開発は2027年度の上市を目指して推進しています。

なお、創薬事業における臨床開発は開発ステージの進捗に伴い経費が増加するため、当第3四半期連結累計期間に「IRO-203」及びバイオシミラーの臨床試験を実施したことにより費用が集中して発生し、前年同四半期比において影響が生じています。

その結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高は12,868百万円（前年同四半期比7.4%減）、営業利益は810百万円（前年同四半期比73.2%減）、経常利益は1,134百万円（前年同四半期比61.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は972百万円（前年同四半期比56.5%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① SMO事業

当セグメントにおきましては、引き続きアンメット・メディカル・ニーズの高いがんや難治性疾患等の疾患領域の開発が増加しているため、専門医療センターや大学病院等の基幹病院との提携を拡大し、あらゆる疾患領域の試験の受託が可能な体制を構築しています。また、がんや難治性疾患等の試験と比較して1試験あたりの規模が大きいプライマリー領域の試験の受託も推進しており、第4四半期には新たに受託した大型案件の実施を予定しているなど、計画が順調に進捗しています。

また、医薬品・医療機器等の開発はグローバル化や開発期間の短縮化が進むとともに、開発手法の変化により、臨床試験に対するニーズの多様化が続いています。当社グループのSMO事業では、医薬品開発を取り巻く環境の変化及び複雑化・高度化する臨床試験に迅速かつ柔軟に対応するため、より一層の人材教育の徹底を図っており、これらの品質マネジメントへの取り組みが治験依頼者や治験実施医療機関から評価され、新たな試験の受託に結びついています。

その結果、売上高は6,373百万円（前年同四半期比20.7%減）、営業利益は2,839百万円（前年同四半期比34.9%減）となりました。

② CRO事業

当セグメントにおきましては、日本・オーストラリア両国にて保有する臨床試験実施施設において、欧米や日本を含むアジア・オセアニア地域の製薬企業等の早期段階の医薬品開発を支援しています。また、国内において、国内外の製薬企業の臨床試験や申請業務等の支援を行うとともに、医師主導治験や臨床研究の支援を行っています。

当第3四半期連結結果計期間においては、海外の臨床試験実施施設における新規試験の受託が堅調に推移するとともに、国内の臨床試験実施施設や開発業務支援事業の業績が伸長しました。

国内の臨床試験実施施設や開発業務支援事業では、受託業務の拡大や統計解析分野の強化に継続的に取り組んでおり、医師主導治験をはじめとする複数の新規試験を受託するなど、事業基盤の強化によって業績が急拡大しています。

その結果、売上高は4,418百万円（前年同四半期比11.4%増）、営業利益は51百万円（前年同四半期は営業損失70百万円）となりました。

③ 先端医療事業

当セグメントにおきましては、COVID-19ワクチンの開発において、国内初となる経鼻接種によるウイルスベクターワクチンの実用化を目指し、第I相臨床試験を実施中です。中間解析では単回接種による安全性及び忍容性について問題となる事象は見られておらず、引き続き2回接種による安全性評価及び接種間隔やブースト効果等の有効性評価を実施する予定です。

バイオシミラーの開発は、国際共同第III相試験を実施中であり、目標症例数の登録が完了しました。

また、iPS細胞作製キット「CytoTune-iPS」のライセンス事業が顕著に拡大しており、複数の企業と新規ライセンス契約を締結しました。締結済のライセンス契約に基づく当該技術の再実施権が行使されるなど、ライセンス事業により基盤技術であるセンダイウイルスベクターを用いた新たな事業機会の創出に取り組んでいます。

当セグメントでは、COVID-19ワクチンやバイオシミラー開発をはじめとする研究開発に注力しており、その経費が引き続き発生しておりますが、ライセンス事業や化粧品の販売及びOEM事業などの当セグメントにおける各事業の推進により収益の改善を図っています。

その結果、売上高は1,049百万円（前年同四半期比2.8%増）、営業損失は130百万円（前年同四半期は営業損失102百万円）となりました。

④ メディカルサポート事業

当セグメントにおきましては、開発事業者や不動産会社などと連携して、駅からのアクセスや地域の医療機関の需要など、様々な条件を満たす主に新築の物件を厳選してクリニックモールを開設しています。また、クリニックモールでの開業を検討する医師に対して開業支援を手がけるとともに、開業後の医療機関に臨床試験を紹介するなどその経営を多角的に支援しており、収益を確保しています。

一方で、当社グループの各事業のさらなる拡大のために、設備投資等を含めたサポートを行っており、それらにかかる費用が発生しています。

その結果、売上高は801百万円（前年同四半期比2.1%減）、営業利益は3百万円（前年同四半期比94.5%減）となりました。

⑤ その他

その他の事業におきましては、上記以外の事業等により、売上高は224百万円（前年同四半期比303.1%増）、営業損失は566百万円（前年同四半期は営業損失67百万円）となりました。

（注）売上高は外部取引のみの合計であり、セグメントの営業利益は、セグメント間の内部取引による利益を含んだ合計であります。

（2）財政状態に関する説明

総資産につきましては、前連結会計年度末より1,415百万円増加し、36,545百万円となりました。これは工具器具備品及び投資有価証券が増加した一方、現金及び預金が減少したことが主な要因となっております。

負債につきましては、前連結会計年度末より1,212百万円増加し、24,186百万円となりました。これは短期借入金及び長期借入金が増加したことが主な要因となっております。

純資産につきましては、前連結会計年度末より203百万円増加し、12,358百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により増加したことが主な要因となっております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,386	7,250
売掛金	3,389	3,403
商品及び製品	80	95
仕掛品	345	405
原材料及び貯蔵品	387	377
短期貸付金	689	661
その他	1,448	2,365
貸倒引当金	△398	△384
流動資産合計	15,328	14,175
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,191	7,293
工具、器具及び備品（純額）	1,274	1,955
機械装置及び運搬具（純額）	1,059	948
土地	1,272	2,491
建設仮勘定	2,206	2,531
有形固定資産合計	13,003	15,221
無形固定資産		
のれん	915	863
その他	44	47
無形固定資産合計	959	911
投資その他の資産		
投資有価証券	2,959	3,477
長期貸付金	542	234
差入保証金	1,426	1,345
繰延税金資産	114	83
その他	794	1,096
投資その他の資産合計	5,837	6,237
固定資産合計	19,800	22,369
資産合計	35,129	36,545

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	576	582
短期借入金	6,360	6,360
1年内返済予定の長期借入金	2,172	2,704
未払法人税等	395	195
契約負債	372	503
リース債務	148	199
その他	2,361	2,248
流動負債合計	12,385	12,793
固定負債		
長期借入金	8,646	9,260
繰延税金負債	3	11
資産除去債務	150	147
預り保証金	390	390
退職給付に係る負債	170	163
リース債務	1,183	1,297
その他	44	122
固定負債合計	10,589	11,393
負債合計	22,974	24,186
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,899	3,899
資本剰余金	1,495	1,495
利益剰余金	7,036	7,161
自己株式	△424	△424
株主資本合計	12,006	12,132
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	107	166
為替換算調整勘定	33	59
その他の包括利益累計額合計	141	226
非支配株主持分	6	—
純資産合計	12,154	12,358
負債純資産合計	35,129	36,545



(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	13,896	12,868
売上原価	7,015	7,328
売上総利益	6,881	5,540
販売費及び一般管理費		
役員報酬	364	378
給料手当及び賞与	1,520	1,799
支払手数料	137	167
賃借料	315	374
研究開発費	495	521
その他	1,018	1,487
販売費及び一般管理費合計	3,853	4,729
営業利益	3,027	810
営業外収益		
受取利息	97	17
受取配当金	0	0
投資有価証券売却益	—	11
持分法による投資利益	7	—
助成金収入	56	46
為替差益	48	295
受取地代家賃	2	146
その他	54	157
営業外収益合計	267	675
営業外費用		
支払利息	100	131
有価証券運用損	143	1
支払手数料	127	8
賃貸収入原価	1	141
その他	0	67
営業外費用合計	372	351
経常利益	2,922	1,134
特別利益		
固定資産売却益	59	211
その他	1	—
特別利益合計	61	211
特別損失		
固定資産除却損	3	7
特別損失合計	3	7
税金等調整前四半期純利益	2,980	1,337
法人税、住民税及び事業税	724	342
法人税等調整額	5	23
法人税等合計	730	365
四半期純利益	2,249	972
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,238	972
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	11	△0
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	58
為替換算調整勘定	△0	25
その他の包括利益合計	21	84
四半期包括利益	2,270	1,057
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,259	1,057
非支配株主に係る四半期包括利益	11	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
該当事項はありません。